

(榎本) すい環境づくり」にご理解いただければありがたいですね。

## 地域福祉の未来予想図

泉 最後に、今後の民生委員と地区社協のつながりについてや、地域の中での役割についてご意見をいただければと思います。

羽田 地区社協には「地域づくり」という役割を期待しています。「地域づくり」というと、従来の福祉のイメージから少し離れてしまうように感じますが、見守りをはじめ、お互いが助け合えるような「地域づくり」を目指せば、それが結果として大きな福祉になるのだと思います。

民生委員が、情報を把握しづらい環境の中で、行政は「住民が地域の情報を（民生委員に）伝えてくれる」、「民生委員を支えてくれる」ような仕組みが必要だということを、地域に責任を持って訴えかけていかなければいけません。行政は、その仕組みを地区社協と一緒にやっていきたいと思っています。

行政は、まず市社協と何を一緒にやっというかと考えて行く中で、民生委員・市社協・地区社協・行政の4者が、みんなで何かの方向に向かって、安心して暮らせる地域づくりを目標としていきたいと、青写真を描いています。

山崎 今日話を伺っていて、「要援護者の時代」だなと感じました。要援護者の時代というのは、「要援護者の望む生活を、地域が支える」という意味と、もう一つあるように思います。

それは、要援護者自身が「地域の担い手（人材）」と成り得るのではないかとということです。高齢化が進んでいることから考えると、都会でも中山間地でも、日中家にいるのは年配の方や障がいがある方で在宅の方、または小さいお子さんがいる世帯です。この方たちは、皆さん要援護者なんです。

国の統計で調べてみると、日本人は土日も働いている人が多いようです。若い人が、日中、田舎にも都会にもいないとすると、地域の主役

は要援護者の方たちというわけです。

この方たちは、サービスを受けることもあるし、自分も何かの形で（できる範囲で）参加してもらおう。そして、民生委員には、その要援護者の状況や、自分たちだけでは担えないぞという信号を、いろいろな人（行政・社協など）に対して発信していただきたいと思っています。

地区社協は、地域に対して「今まで支えてもらう側だと思われていた方も、支えていく側になれることを、一緒に考えていきましょう」という声かけをしていきたいなと思っています。

行政や市社協は、医者でいうと、非常に緊急で、手術が必要な方や重い病気になった方を集中的にお手伝いをする。そして、皆さんの地域に、またその方を戻す時に、（地区社協や民生委員に見守りなどの）協力をお願いするといった役割に変わっていくのかなと思っています。

木野 戦後、高度経済成長が続いてきた時代から、それまであった地縁や血縁、仕事でのつながりといったものが支えていた部分を、経済成長を経て来る中で、日本人はあえてその部分を切り捨ててきました。「あなたのことに口出ししない代わりに、私のことにも口を出さないで」という価値観を選択してきた中で、かつての「縁」みたいのものがなくなってきています。

そういう現状であれば、違う縁みたいな仕組みを作らなければいけないと思うんです。この縁を地域で作っていくのが、社協の目指している福祉コミュニティです。これをきめ細かく進めていくのは、地区社協という組織以外にはないと思います。

これまでのように、地域で福祉のことをやるのは民生委員というかつての姿ではなく、民生委員と一緒にやってくれる人たちを地域で作っていく、そういう役割を地区社協が担っていかなければいけないと思っています。できれば、民生委員には、今まで福祉に関わりのなかった人たちに、福祉へ近づいてもらえるような働きかけをしてもらえるとありがたいです。